

森鷗外「舞姫」テスト対策練習問題と過去問まとめ

年	組	番	名前
---	---	---	----

問1 「舞姫」の作者として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：夏目漱石
- イ：森鷗外
- ウ：芥川龍之介
- エ：中島敦

問2 「舞姫」の主人公として正しい人物を次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：相沢謙吉
- イ：天方伯
- ウ：太田豊太郎
- エ：エリス

問3 「舞姫」の主な舞台として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：ロンドン
- イ：パリ
- ウ：東京
- エ：ベルリン

問4 「洋行」の意味として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：西洋へ行くこと
- イ：役所を辞めること
- ウ：船の中で日記を書くこと
- エ：故郷へ帰ること



問5 「官命」の意味として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：自分で決めた予定
- イ：役所や政府からの命令
- ウ：家族からの手紙
- エ：友人からの助言

問6 「模糊」の意味として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：はっきりしていること
- イ：静かで落ち着いていること
- ウ：ぼんやりしていること
- エ：勢いが強いこと

問7 「憐憫」の意味として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：強く疑うこと
- イ：かわいそうに思うこと
- ウ：おごり高ぶること
- エ：人をおとし入れること

問8 「讒誣」の意味として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：相手をほめたたえること
- イ：事実を正確に報告すること
- ウ：事実でない悪口を言って人をおとし入れること
- エ：悲しみに沈むこと

問9 「免官」の意味として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：官職をやめさせられること
- イ：官職につくこと
- ウ：官職を断ること
- エ：官職の試験に合格すること



問10 「踟蹰」の意味として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：急いで走ること
- イ：大声で泣くこと
- ウ：ためらって進めないこと
- エ：静かに眠ること

問11 「一諾」の意味として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：一度承諾すること
- イ：一度だけ泣くこと
- ウ：一人で考えること
- エ：一つの手紙を書くこと

問12 「讒語」の意味として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：別れのあいさつ
- イ：熱などで意識が乱れて言う言葉
- ウ：相手を説得する言葉
- エ：日記に書いた言葉

問13 太田豊太郎の説明としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：ドイツで生まれ育った舞台俳優
- イ：日本からドイツへ留学した優秀な青年官僚
- ウ：エリスの父の友人
- エ：天方伯に仕えるドイツ人秘書官

問14 エリスの説明としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：ベルリンの舞姫で、豊太郎と深く関わる女性
- イ：日本から来た豊太郎の妹
- ウ：相沢謙吉の妻
- エ：天方伯の娘



問15 相沢謙吉の説明としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：豊太郎を免官した官長
- イ：エリスの父
- ウ：豊太郎の友人で、天方伯の秘書官
- エ：ベルリンの新聞記者

問16 天方伯の説明として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：豊太郎を再び評価し、日本へ連れ帰るきっかけとなる大臣
- イ：エリスを舞台に立たせた劇場の座長
- ウ：豊太郎をベルリンでかくまった医師
- エ：エリスの父の葬儀を行った人物

問17 「舞姫」の物語の語り方として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：エリスが死後に書いた手記の形
- イ：相沢が豊太郎を批判する手紙の形
- ウ：豊太郎が帰国する船の中で過去を回想する形
- エ：天方伯が留学生を評価する報告書の形

問18 豊太郎がベルリンでエリスと出会った場所として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：大学の講義室
- イ：古寺の前
- ウ：新聞社の編集室
- エ：天方伯の宿泊先

問19 豊太郎が免官された主な理由として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：天方伯に反抗したから
- イ：日本へ帰ることを拒んだから
- ウ：エリスとの関係を同郷人に悪く噂されたから
- エ：大学の試験に落ちたから



問20 免官後の豊太郎を助けた人物として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：相沢謙吉
- イ：エリスの父
- ウ：官長
- エ：レエベマン

問21 豊太郎が日本にいたころの生き方としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：自分の感情だけに従って自由に生きていた
- イ：母や官長の期待に従い、まじめに勉強や仕事をしていた
- ウ：学問を嫌い、遊びにふけていた
- エ：エリスと結婚するためだけに努力していた

問22 「器械的の人物」とは、豊太郎のどのようなあり方を表しているか。もっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：自分の意志よりも、他人の期待や命令に従って動くあり方
- イ：機械を作る技術にすぐれているあり方
- ウ：人間らしい感情を完全に失ったあり方
- エ：外国語を機械のように正確に話すあり方

問23 ベルリンで豊太郎の心に起こった変化として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：政治家になる夢をますます強くした
- イ：日本への忠誠心を完全に失った
- ウ：自由な大学の風にふれ、自分の本当の心に気づき始めた
- エ：エリスに会う前から帰国を決意した



問24 エリスと出会ったとき、豊太郎が最初に抱いた気持ちとしてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：強い敵意
- イ：憐憫の情
- ウ：政治的な野心
- エ：出世への焦り

問25 エリスが豊太郎に助けを求めた理由として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：父の葬儀費用にも困っていたから
- イ：大学に入学したかったから
- ウ：日本へ行きたかったから
- エ：相沢から逃げていたから

問26 豊太郎とエリスの関係について、正しい説明を次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：最初から相沢に命じられて始まった関係である
- イ：豊太郎の憐れみから始まり、しだいに深い愛情へ変わっていく
- ウ：豊太郎がエリスを最初から利用しようとした関係である
- エ：エリスが豊太郎を日本へ帰すために近づいた関係である

問27 相沢謙吉が豊太郎に勧めたこととして、もっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：エリスとともにベルリンで一生暮らすこと
- イ：エリスとの関係を断ち、天方伯の信用を得て日本へ帰ること
- ウ：舞台俳優になること
- エ：エリスの母を日本へ連れて帰ること

問28 相沢謙吉の役割としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：豊太郎を助ける一方で、エリスとの別れを決定づける人物
- イ：豊太郎とエリスの結婚を最後まで応援する人物
- ウ：豊太郎を最初から憎んで陥れる人物
- エ：物語の語り手としてすべてを記録する人物



問29 豊太郎が帰国を選ぶ理由として、もっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：エリスをまったく愛していなかったから
- イ：ベルリンでの生活に十分満足していたから
- ウ：日本で名誉を回復し、出世する道を捨てきれなかったから
- エ：エリスが豊太郎に帰国を強く勧めたから

問30 豊太郎の決断の問題点としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：エリスと子どもへの責任を引き受けきれなかったこと
- イ：相沢の助言をまったく聞かなかったこと
- ウ：天方伯を完全に拒絶したこと
- エ：母の願いをすべて忘れたこと

問31 エリスが精神を病む直接のきっかけとして正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：父が亡くなったこと
- イ：豊太郎の帰国の約束や、自分が捨てられることを知ったこと
- ウ：舞台の仕事を失ったこと
- エ：相沢が新聞社を辞めたこと

問32 豊太郎が相沢に対して最後まで抱き続ける感情としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：感謝だけで、恨みは全くない
- イ：憎しみだけで、感謝は全くない
- ウ：感謝と、消えない憎しみが混ざった複雑な感情
- エ：無関心



【本文】

嗚呼、布林ヂイシイの港を出で、より、早や二十日あまりを経ぬ。世の常ならば生面の客にさへ交りを結びて、旅の憂さを慰めあふが航海の習なるに、微恙にことよせて房の裡にのみ籠りて、同行の人々にも物言ふことの少きは、人知らぬ恨に頭のみ悩ましたればなり。

此恨は初め一抹の雲の如く我心を掠めて、瑞西の山色をも見せず、伊太利の古蹟にも心を留めさせず、中頃は世を厭ひ、身をはかなみて、腸日ごとに九廻すともいふべき惨痛をわれに負はせ、今は心の奥に凝り固まりて、一点の翳とのみなりたれど、文読むごとに、物見ると共に、鏡に映る影、声に応ずる響の如く、限なき懐旧の情を喚び起して、幾度となく我心を苦む。

問33 豊太郎が船中で一人部屋にこもっている理由を、本文中の言葉を使って答えなさい。

問34 「人知らぬ恨」とは、どのような感情だと考えられるか。説明しなさい。

問35 「瑞西の山色をも見せず、伊太利の古蹟にも心を留めさせず」とあるが、この表現から分かる豊太郎の状態を説明しなさい。

【本文】

余は幼き比より厳しき庭の訓を受けし甲斐に、父をば早く喪ひつれど、学問の荒み衰ふることなく、旧藩の学館にありし日も、東京に出で、予備費に通ひしときも、大学法学部に入りし後も、太田豊太郎といふ名はいつも一級の首にしるされたりしに、一人子の我を力になして世を渡る母の心は慰みけらし。

余は模糊たる功名の念と、検束に慣れたる勉強力とを持ちて、忽ちこの欧羅巴の新大都の中央に立てり。

かくて三年ばかりは夢の如くにたちしが、時来れば包みても包みがたきは人の好尚なるらむ、余は父の遺言を守り、母の教に従ひ、人の神童なりなど褒むるが嬉しさに怠らず学びし時より、官長の善き働き手を得たりと奨ますが喜ばしさにたゆみなく勤めし時まで、たゞ所動的、器械的の人物になりて自ら悟らざりしが、今二十五歳になりて、既に久しくこの自由なる大学の風に当り



たればにや、心の中なにとなく妥ならず、奥深く潜みたりしまことの我は、やうやう表にあらはれて、きのふまでの我ならぬ我を攻むるに似たり。

問36 豊太郎が幼いころから優秀だったことを示す表現を、本文中から抜き出さない。

問37 豊太郎がこれまで他人に動かされるように生きてきたことを表す語句を、本文中から二つ抜き出さない。

問38 「まことの我」が表に現れ始めた理由を、本文に即して説明しなさい。

【本文】

或る日の夕暮なりしが、余は獣苑を漫歩して、ウンテル、デン、リンデンを過ぎ、我がモンビシユウ街の僑居に帰らんと、クロステル巷の古寺の前に来ぬ。

今この処を過ぎんとするとき、鎖したる寺門の扉に寄りて、声を呑みつゝ泣くひとりの少女あるを見たり。年は十六七なるべし。被りし巾を洩れたる髪の色は、薄きこがね色にて、着たる衣は垢つき汚れたりとも見えず。我足音に驚かされてかへりみたる面、余に詩人の筆なければこれを写すべくもあらず。

彼は料らぬ深き歎きに遭ひて、前後を顧みる違なく、こゝに立ちて泣くにや。わが臆病なる心は憐憫の情に打ち勝たれて、余は覚えず側に寄り、「何故に泣き玉ふか。ところに繫累なき外人は、却りて力を借し易きこともあらん。」といひ掛けたるが、我ながらわが大胆なるに呆れたり。

「我を救ひ玉へ、君。わが恥なき人とならんを。母はわが彼の言葉に従はねばとて、我を打ちき。父は死にたり。明日は葬らではかなはぬに、家に一銭の貯だになし。」

問39 豊太郎がエリスと出会った場所を、本文中から抜き出さない。



問40 豊太郎がエリスに声をかけた直接のきっかけとなる心情を、本文中から抜き出さない。

問41 エリスが豊太郎に助けを求めた理由を、本文に即して説明しなさい。

【本文】

嗚呼、何等の悪因ぞ。この恩を謝せんとて、自ら我僑居に来し少女は、シヨオペンハウエルを右にし、シルレルを左にして、終日兀坐する我読書の窓下に、一輪の名花を咲かせてけり。この時を始として、余と少女との交り漸く繁くなりもて行きて、同郷人にさへ知られぬれば、彼等は速了にも、余を以て色を舞姫の群に漁するものとしたり。

その名を斥さんは憚りあれど、同郷人の中に事を好む人ありて、余が屢芝居に出入して、女優と交るといふことを、官長の許に報じつ。さらぬだに余が頗る学問の岐路に走るを知りて憎み思ひし官長は、遂に旨を公使館に伝へて、我官を免じ、我職を解いたり。

余とエリスとの交際は、この時までは余所目に見るより清白なりき。

嗚呼、委しくこゝに写さんも要なけれど、余が彼を愛づる心の俄に強くなりて、遂に離れ難き中となりしは此折なりき。

問42 豊太郎とエリスの関係が同郷人にどのように誤解されたか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

問43 豊太郎が免官されたことを表す一文を、本文中から抜き出さない。

問44 「余とエリスとの交際は、この時までは余所目に見るより清白なりき」とは、どのようなことを表しているか。説明しなさい。



【本文】

此時余を助けしは今我同行の一人なる相沢謙吉なり。彼は東京に在りて、既に天方伯の秘書官たりしが、余が免官の官報に出でしを見て、某新聞紙の編輯長に説きて、余を社の通信員となし、伯林に留まりて政治学芸の事などを報道せしむることとなしつ。

社の報酬はいふに足らぬほどなれど、棲家をもうつし、午餐に往く食店をもかへたらんには、微かなる暮らしは立つべし。兎角思案する程に、心の誠を顕して、助の綱をわれに投げ掛けしはエリスなりき。かれはいかに母を説き動かしけん、余は彼等親子の家に寄寓することとなり、エリスと余とはいつよりとはなしに、有るか無きかの収入を合せて、憂きがなかにも楽しき月日を送りぬ。

問45 免官後の豊太郎を助けた人物の名前を、本文中から抜き出さない。

問46 相沢謙吉が豊太郎をどのように助けたか。本文に即して説明しなさい。

問47 エリスが豊太郎を支えたことが分かる表現を、本文中から抜き出さない。

問48 「憂きがなかにも楽しき月日」とは、どのような生活を表しているか。説明しなさい。

【本文】

われも諸共に行かまほしきを。少し容をあらためて。「否、かく衣を更め玉ふを見れば、何となくわが豊太郎の君とは見えず。」又た少し考へて。「縦令富貴になり玉ふ日はありとも、われをば見棄て玉はじ。我病は母の宣ふ如くならずとも。」

「何、富貴。」余は微笑しつ。「政治社会などに出でんの望みは絶ちしより幾年をか経ぬるを。大臣は見たくもなし。唯年久しく別れたりし友にこそ逢ひには行け。」



余が車を下りしは「カイゼルホオフ」の入口なり。門者に秘書官相沢が室の番号を問ひて、久しく踏み慣れぬ大理石の階を登り、中央の柱に「プリユツシュ」を被へる「ゾファ」を据ゑつけ、正面には鏡を立てたる前房に入りぬ。外套をばこゝにて脱ぎ、廊をつたひて室の前まで行きしが、余は少し踟躕したり。

問49 エリスが豊太郎を不安に思っていることが分かる言葉を、本文中から抜き出さない。

問50 豊太郎がエリスに言った説明と、実際の心の動きのずれを説明しなさい。

問51 豊太郎が相沢の部屋の前でためらったことを表す語句を、本文中から抜き出さない。

【本文】

後に聞けば彼は相沢に逢ひしとき、余が相沢に与へし約束を聞き、またかのタベ大臣に聞え上げし一諾を知り、俄に座より躍り上がり、面色さながら土の如く、「我豊太郎ぬし、かくまでに我をば欺き玉ひしか」と叫び、その場に僵れぬ。

これよりは騒ぐことはなけれど、精神の作用は殆ど全く廃して、その痴なること赤児の如くなり。医に見せしに、過劇なる心労にて急に起りし「パラノイア」といふ病なれば、治癒の見込なしといふ。

余が病は全く癒えぬ。エリスが生ける屍を抱きて千行の涙を濺ぎしは幾度ぞ。大臣に随ひて帰東の途に上りしときは、相沢と議りてエリスが母に微かなる生計を営むに足るほどの資本を与へ、あはれなる狂女の胎内に遺し、子の生れむをりの事をも頼みおきぬ。

嗚呼、相沢謙吉が如き良友は世にまた得がたかるべし。されど我脳裡に一点の彼を憎むこゝろ今日までも残れりけり。

問52 エリスが衝撃を受けた理由を、本文に即して説明しなさい。



問53 エリスが精神を病んでしまったことを表す一文を、本文中から抜き出さない。

問54 豊太郎がエリスと子どもに対して取った最後の対応を説明しなさい。

問55 最後に豊太郎が相沢を「良友」としながらも憎む心を残しているのはなぜか。説明しなさい。

問56 豊太郎の悲劇としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

ア：学問にまったく関心がなかったこと

イ：エリスを愛しながらも、社会的な名誉や出世を捨てきれず、責任を取りきれなかったこと

ウ：相沢に一度も助けてもらえなかったこと

エ：日本へ帰る機会を最後まで得られなかったこと

問57 エリスの役割としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

ア：豊太郎の出世を完全に妨害するだけの人物

イ：豊太郎を日本へ帰すために利用する人物

ウ：豊太郎に愛や人間らしい生活を気づかせる一方、豊太郎の弱さの犠牲になる人物

エ：物語の語り手として豊太郎を批判する人物

問58 「舞姫」で対立しているものとしてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

ア：国家・出世と、個人の愛・責任

イ：自然と科学

ウ：古典文学と近代文学

エ：農村生活と都市生活



問59 「舞姫」の主題としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：努力すれば必ず出世できるという成功物語
- イ：外国での観光の楽しさを描いた紀行文
- ウ：愛を選べば必ず幸せになれるという恋愛物語
- エ：国家や出世と個人の愛の間で揺れ、責任を取りきれなかった人間の悲劇

問60 豊太郎を読むときに避けたい説明として、もっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：豊太郎は優秀だが、自分で決断する力に弱さがある人物である
- イ：豊太郎はエリスを愛していたが、最後まで責任を取れなかった人物である
- ウ：豊太郎は何の葛藤もなく、最初からエリスを利用するだけの悪人である
- エ：豊太郎は相沢に対して感謝と憎しみの混ざった感情を抱いている



森鷗外「舞姫」テスト対策練習問題と過去問まとめ（解答）

問1 イ

【解説】「舞姫」の作者は森鷗外だよ。明治時代の近代文学を代表する作家の一人なんだ。

問2 ウ

【解説】「舞姫」の主人公は太田豊太郎だよ。日本からドイツへ留学した優秀な青年官僚として描かれているんだ。

問3 エ

【解説】「舞姫」の主な舞台はドイツのベルリンだよ。豊太郎はベルリン留学中にエリスと出会うんだ。

問4 ア

【解説】「洋行」は、西洋へ行くことだよ。「舞姫」では、豊太郎が官命によってドイツへ留学することと関係しているんだ。

問5 イ

【解説】「官命」は、役所や政府からの命令という意味だよ。豊太郎は官命によってドイツへ渡ったんだ。

問6 ウ

【解説】「模糊」は、ぼんやりしてはっきりしないことだよ。「模糊たる功名の念」は、豊太郎が名誉や出世をぼんやりと求めていたことを表しているんだ。

問7 イ

【解説】「憐憫」は、かわいそうに思うことだよ。豊太郎がエリスに声をかける場面では、この憐れみの気持ちが重要になるんだ。

問8 ウ

【解説】「讒誣」は、事実でない悪口を言って人をおとしめることだよ。豊太郎は同郷の留学生たちから疑われ、讒誣されていくんだ。



問9 ア

【解説】「免官」は、官職をやめさせられることだよ。豊太郎はエリスとの関係を悪く噂され、官職を解かれてしまうんだ。

問10 ウ

【解説】「踟蹰」は、ためらって進めないことだよ。豊太郎が相沢に会う場面では、心の迷いを表す語句として重要になるよ。

問11 ア

【解説】「一諾」は、一度承諾することだよ。豊太郎が帰国に関わる約束をしてしまう場面で重要になる語句なんだ。

問12 イ

【解説】「譫語」は、熱などで意識が乱れて言う言葉、つまりうわごとのことだよ。豊太郎が病に倒れた場面で出てくる語句なんだ。

問13 イ

【解説】太田豊太郎は、日本からドイツへ留学した優秀な青年官僚だよ。物語は、彼が帰国する船の中で過去を回想する形で進むんだ。

問14 ア

【解説】エリスは、ベルリンの舞姫だよ。父を亡くして困っているところを豊太郎に助けられ、やがて豊太郎と深い関係になるんだ。

問15 ウ

【解説】相沢謙吉は、豊太郎の友人であり、天方伯の秘書官だよ。豊太郎を助ける一方で、エリスとの関係を断つように勧める人物でもあるんだ。

問16 ア

【解説】天方伯は、日本の大臣だよ。豊太郎は天方伯に認められることで、日本で名誉を回復する道を得るんだ。



問17 ウ

【解説】「舞姫」は、豊太郎が帰国する船の中で、ベルリンでの出来事を振り返る形で語られているよ。冒頭の「人知らぬ恨」が重要なんだ。

問18 イ

【解説】豊太郎は、ベルリンの古寺の前で泣いているエリスと出会うよ。この出会いが、豊太郎の運命を大きく変えるんだ。

問19 ウ

【解説】豊太郎は、エリスとの関係を同郷人に悪く噂され、官長に伝えられたことで免官されるよ。ここには、当時の官僚社会の厳しさも表れているんだ。

問20 ア

【解説】免官後の豊太郎を助けたのは相沢謙吉だよ。相沢は豊太郎に新聞社の通信員の仕事を紹介するんだ。

問21 イ

【解説】豊太郎は、幼いころから母や官長の期待に応えようとして、まじめに努力してきた人物だよ。ただし、自分の意志で人生を選んできたとは言い切れないんだ。

問22 ア

【解説】「器械的の人物」とは、自分で考えて選ぶのではなく、母や官長の期待に従って動いてきた豊太郎のあり方を表しているよ。

問23 ウ

【解説】豊太郎はベルリンの自由な大学の空気にふれ、今まで表に出てこなかった「まことの我」が現れ始めるよ。ここは心情変化の重要ポイントなんだ。

問24 イ

【解説】豊太郎は、泣いているエリスを見て、憐憫の情を抱くよ。最初は恋愛というより、かわいそうに思う気持ちから声をかけたんだ。



問25 ア

【解説】エリスは父を亡くし、葬儀の費用にも困っていたよ。その苦しさが、豊太郎との出会いのきっかけになるんだ。

問26 イ

【解説】豊太郎とエリスの関係は、豊太郎の憐れみから始まるよ。けれど、しだいに二人は親しくなり、深い関係になっていくんだ。

問27 イ

【解説】相沢は、豊太郎にエリスとの関係を断ち、天方伯の信用を得て日本へ帰るように勧めるよ。相沢は豊太郎を出世の道へ戻そうとしているんだ。

問28 ア

【解説】相沢は、豊太郎を助ける友人である一方、豊太郎をエリスから引き離す人物でもあるよ。そのため、豊太郎の感情は相沢に対して複雑なんだ。

問29 ウ

【解説】豊太郎はエリスを愛していなかったわけではないよ。しかし、日本で名誉を回復する道や出世への未練を捨てきれず、帰国を選んでしまうんだ。

問30 ア

【解説】豊太郎は、エリスを愛しながらも、エリスと子どもへの責任を最後まで引き受けることができなかったよ。ここに豊太郎の弱さが表れているんだ。

問31 イ

【解説】エリスは、豊太郎が相沢や大臣と交わした約束を知り、強い衝撃を受けるよ。その結果、精神を病んでしまうんだ。

問32 ウ

【解説】豊太郎は相沢を「良友」としながらも、「彼を憎むころ」が残っていると語るよ。相沢は助けてくれた友人でありながら、エリスとの別れを決定づけた人物でもあるんだ。



問33 人知らぬ恨に頭のみ悩ましたればなり。

【解説】豊太郎は、ただ体調が悪いから部屋にこもっているのではないよ。誰にも分からない深い苦しみ、「人知らぬ恨」に悩まされているんだ。

問34 エリスを捨ててしまった後悔や罪悪感、自分の弱さへの苦しみ、相沢への感謝と恨みが入り混じった、他人には分からない深い苦しみ。

【解説】「恨」は、単に誰かを憎む気持ちだけではないよ。豊太郎の後悔、罪悪感、自己嫌悪、相沢への複雑な感情が重なっていると考えられるんだ。

問35 美しい景色や有名な古跡を見ても心が動かないほど、過去の苦しみに心を支配されている状態。

【解説】豊太郎は旅の景色を楽しめないほど、心の中の「恨」に苦しんでいるんだ。冒頭から、豊太郎の強い後悔が示されているよ。

問36 太田豊太郎といふ名はいつも一級の首にしるされたり

【解説】「一級の首」とは、成績がいつも一番であったことを表しているよ。豊太郎は、幼いころから優秀な人物として期待されていたんだ。

問37 所動的。器械的の人物。

【解説】「所動的」は、自分から動くのではなく、他から動かされるようなあり方を表すよ。「器械的の人物」は、母や官長の期待に従って機械のように動いてきた豊太郎のあり方を示しているんだ。

問38 ベルリンで自由な大学の風に長く触れたことで、母や官長に従うだけではない、自分自身の本当の心が目覚め始めたから。

【解説】豊太郎は、日本では周囲の期待に従って生きてきたよ。しかしベルリンの自由な空気に触れたことで、自分の本当の希望や違和感に気づき始めるんだ。

問39 クロステル巷の古寺の前

【解説】豊太郎は、ベルリンのクロステル巷の古寺の前で、泣いている少女エリスを見けるよ。



問40 憐憫の情

【解説】豊太郎は、困って泣いているエリスをかわいそうに思い、声をかけるよ。二人の関係は、まず豊太郎の憐れみから始まるんだ。

問41 父が亡くなり、翌日には葬らなければならないのに、家には葬儀の費用となる貯えが全くなかったから。

【解説】エリスは、父の死と貧しさによって追いつめられていたよ。この苦しい状況が、豊太郎との出会いの背景にあるんだ。

問42 豊太郎が「色を舞姫の群に漁するもの」と誤解された。

【解説】同郷人たちは、豊太郎が舞姫たちと遊び歩いているかのように悪く受け取ったよ。この噂が豊太郎の免官につながっていくんだ。

問43 我官を免じ、我職を解いたり。

【解説】この一文は、豊太郎が官職を失ったことを表しているよ。エリスとの関係を悪く噂されたことが、豊太郎の地位を崩すきっかけになるんだ。

問44 周囲からは不純な関係のように見られていたが、実際にはその時点までの二人の交際は清らかなものだったということ。

【解説】豊太郎は、自分とエリスの関係が周囲に誤解されたと語っているよ。ここには、自分への弁明の気持ちも読み取れるんだ。

問45 相沢謙吉

【解説】免官後に豊太郎を助けたのは相沢謙吉だよ。相沢は新聞社の通信員の仕事を紹介し、豊太郎がベルリンに残れるようにしたんだ。

問46 新聞社の編集長に説いて、豊太郎を通信員とし、ベルリンに残って政治や学芸のことを報道できるようにした。

【解説】相沢は豊太郎を助ける友人として登場するよ。ただし、後にはエリスとの別れを促す人物にもなるため、役割は複雑なんだ。

問47 助の綱をわれに投げ掛けしはエリスなりき。

【解説】エリスは、豊太郎が苦しいときに助けの手を差しのべる存在として描かれているよ。豊太郎はエリスに支えられて生活していたんだ。



問48 収入は少なく生活は苦しいが、エリスと支え合いながら、愛情のある日々を送っていたということ。

【解説】豊太郎とエリスの生活は豊かではないよ。でも、その中には二人で暮らす楽しさや愛情もあったんだ。

問49 われをば見棄て玉はじ。

【解説】エリスは、豊太郎が富貴になる日があっても、自分を見捨てないだろうと確かめるように言っているよ。ここには、エリスの不安が表れているんだ。

問50 豊太郎は「大臣は見たくもなし」と言い、ただ友人に会いに行くように説明しているが、実際には相沢や天方伯を通して名誉回復や帰国の道へ近づいていく。

【解説】豊太郎はエリスを安心させるように言っているけれど、心のどこかでは出世や帰国の可能性に揺れているよ。このずれが後の悲劇につながるんだ。

問51 踟躕したり

【解説】「踟躕」は、ためらって進めないことだよ。豊太郎は相沢に会うことに、どこか後ろめたさや不安を感じていると読めるんだ。

問52 豊太郎が相沢に与えた約束や、大臣にした帰国に関わる承諾を知り、自分が豊太郎に欺かれ、見捨てられると分かったから。

【解説】エリスは、豊太郎が自分を置いて帰国する方向へ進んでいることを知り、大きな衝撃を受けるよ。この場面は、豊太郎の選択の重さを示しているんだ。

問53 精神の作用は殆ど全く廃して、その痴なること赤児の如くなり。

【解説】この一文は、エリスが強い心労によって精神を病み、以前のような意識や判断力を失ってしまったことを示しているよ。

問54 相沢と相談して、エリスの母に生活できる程度の資本を与え、エリスの胎内に残した子どもが生まれるときのことも頼んでおいた。

【解説】豊太郎は、金銭的な手配はしているよ。しかし、自分自身がエリスと子どものそばに残って責任を取ったわけではないところが大きな問題なんだ。



問55 相沢は豊太郎を助けてくれた友人である一方で、エリスとの別れやエリスの破滅を決定づけるきっかけを作った人物でもあるため。

【解説】相沢は豊太郎を出世の道へ戻す「良友」だよ。しかし、その助けはエリスを犠牲にするものでもあった。だから豊太郎の中には、感謝と憎しみが同時に残っているんだ。

問56 イ

【解説】豊太郎はエリスを愛していたよ。しかし、社会的な名誉や出世を捨てきれず、エリスと子どもへの責任を引き受けきれなかった。そこに豊太郎の悲劇があるんだ。

問57 ウ

【解説】エリスは、豊太郎に愛や人間らしい生活をもたらす存在だよ。しかし最後には、豊太郎の自己保身や弱さによって深く傷つけられる人物でもあるんだ。

問58 ア

【解説】「舞姫」では、国家や出世を選ぶ道と、エリスへの愛や責任を選ぶ道が対立しているよ。豊太郎はその間で揺れ、最後に出世の道へ戻ってしまうんだ。

問59 エ

【解説】「舞姫」は、豊太郎がエリスを愛しながらも、出世や名誉への未練を捨てきれず、責任を取りきれなかった悲劇を描いているよ。

問60 ウ

【解説】豊太郎を単純な悪人としてだけ見ると、作品の深さが見えにくくなるよ。豊太郎はエリスを愛していたが、責任を引き受けきれず、社会的な道へ流されてしまった弱い人物として読むことが大切なんだ。

